

令和3年度 磐田市立豊田南中学校 学校評価書

重点	目標・取組(項目)	評価指標	自己評価	考察・改善策(案)	学校関係者評価委員から
学校経営の視点		保護者は、学校が目指している子どもの姿や教育内容について知っているか。	A	88%(昨年度は89%)の保護者が「たよりなどを通して、学校が目指している子どもの姿や教育内容がわかる」と回答している。参観会などはほとんどが中止となってしまったが、各種お便りやホームページなどで学校の様子を知っていただくことができた。また、91%(昨年度は87%)の生徒が「先生は自分のことを理解してくれる」と回答している。特別支援教育を始めとして、生徒一人一人の内面理解と個々のニーズに対応した支援をさらに丁寧に行っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・お便りやホームページが充実していてそれが保護者へ伝わっていることが分かった。 ・生徒とも良好な信頼関係が築かれている。引き続き生徒の個性を生かせるような指導をしてほしい。 ・参観会を実施できる方向が見えるとい。 ・リモート参観会など実施してみては？ ・コロナ禍での生徒、学校、保護者とのコミュニケーションのとり方は大変なものがある。 ・特別支援教育が始まって10年余り経ったがまだ道半ばかと思う。すべての子に目配り気配りを継続し、個の理解に努め個々のニーズに対応した支援を見付けてほしい。苦戦している子どもにはどうしたらできるか、分かるかを実感できる場が少しでもあればと思う。
		先生は子どものことを理解して指導にあたっているか。	A		
伝え合い学び合う力の育成(自ら学ぶ)	よくわかる授業の実践	生徒は、授業で学習した内容がわかっているか。	A	85%(昨年度は84%)の生徒は「授業で学習した内容がわかる」と回答している。また、「進んで学習している」と回答した生徒の割合は昨年と比較して大きく伸び、80%(昨年度は67%)となっている。一人一台端末(Chromebook)が整備され、ICTの活用が進み、自分で課題を解決する手段が増えたことで進んで学習する生徒が増えてきたのではないかと考えられる。79%(昨年度は77%)の生徒が「住んでいる地域や行事が好き」と回答している。コロナ禍で依然として納涼祭などの地域の行事が思うように開催されていないが、2年生の職業体験学習など、貴重な経験をさせてもらっている。さらに、教科の授業に地域の方を講師としてお招きするなど、学習内容と地域との繋がりを作っていくことが重要であると考え。	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookが整備され、授業・部活動・長期休暇の課題提出等だけではなく、生徒会選挙や学級委員選出など幅広く活用されていて率直にすごいなと思った。長期休暇の際、先生とChromebookで繋がっているため、疑問に思ったことなどすぐ相談できてとても助かった。 ・ICTの活用により子どもたちの学習意欲は増したのではないかと。 ・端末で以前よりも積極的に物事に対して興味をもち、自分自身で調べ学習することがとても良かった。 ・ICTの進展により授業も時代に即した内容となっている。グループワーク等の工夫した学習も期待したい。 ・生徒自身が学習方法を調整し習得するための試行錯誤を行っている結果と思う。 ・リアルに先生に聞く、友達に聞くということも生きていく上で必要なものでそこが抜け落ちないよう気を付けたい。 ・ICT頼りで自分で考える部分の減少がないか心配である。 ・定期テスト後の自習室などがあるとテスト後の復習に役立つのではないかと。 ・生徒は学習内容を完全に理解できていない。先生に質問しやすいように質問紙でやり取りするとよい。 ・納涼祭の時には中学生が多く参加できるようにしたいと思う。
		生徒は、進んで学習しているか。	A		
		生徒は、住んでいる地域のことに関心があるか。	A		
かかわり合いを深め質の高い集団の育成(共に生きる)	主体性の実践	生徒は、自分の進路や将来の生き方について考えを持っているか。	A	「進路や生き方について考えている」の肯定的な評価は79%(昨年度も79%)である。また、生徒が「目標をもって生活している」と答えた割合は86%(昨年度は81%)であった。地域の方のお話を聞く機会が少ないので、「未来授業」などを実施し、生き方について考えさせたい。また、今年度はしじりエンス授業を学期ごとに1回ずつ行っている。しなやかなたくましさ、一度気持ちが落ち込んで、できるだけ早く回復していくための心の持ち方等を今後も生徒に身に付けさせていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな時期だからこそ、生徒には目標をもって暮らしてもらいたい。 ・今の内からしっかりした目標をもち、努力していくことは大変重要だと思う。生徒一人一人の個性を伸ばす指導をお願いしたい。 ・コロナ禍において生徒たちが目標をもって生活している割合が向上しているのは驚きである。選択肢が少なくなっている時代と思うが生徒たちの将来が楽しみである。 ・コロナ禍のもと各自が将来を今まで以上に考えていると思うし、家族でもそのことについて話し合う時間も増えているのではと思う。 ・主体性はゆくゆくずっと大事になる力だと思うので、“他人ごと”→“自分ごと”になるような刺激を外から与えられたらよい、自己有用感も育めたらと思う。 ・学習の大切さもさることながら、将来に向けて「生きる力」を身に付けるために多くの選択肢が必要だと思えます。
		生徒は、目標を持ち毎日の学校生活を送っているか。	A		
かかわり合いを深め質の高い集団の育成(共に生きる)	共生する態度の実践	学級(学校)には、互いにルールを守り協力する雰囲気があるか。	A		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのルールを守る重要性が子どもたちも理解し実践していると思う。 ・問題の早期発見、早期対応ができるよう、定期的にヒアリングなど行ってもよいと思う。 ・仲間と協力する力、自分をコントロールする力、人間としての基本的な資質は向上している。良好な環境の継続と不登校等生徒への対応を願う。 ・ルールや協力する、相談できるというのは、安心安全な雰囲気からなのだと思う。GW明けや学期明けは不登校になりやすいと思うので、早く生徒たちが楽しみになるような自主的なイベントなどができるようになると良いと思う。 ・相談できる友人や先生がいて学校が楽しい生徒が増えていることは大変素晴らしいと思う。不登校生徒への対応は継続して丁寧な対応を願う。 ・学校、家庭、地域で連携して子育てすることの意味を学んでいる。住みよい地域となるように活動していきたい。 ・心の教室の利用者が増加しているとのこと。SC以外のカウンセリングも希望できるようにしてはどうか。 ・学校は楽しいことばかりではない。学校で楽しいイベントもほしい。
		生徒は、悩み事を相談できる人が学級や学校にいるか。	A	「ルールを守り協力する雰囲気がある」95%(昨年は89%)「相談できる友人や先生がいる」93%(昨年は88%)「学校が楽しい」88%(昨年は86%)の3項目の結果から、昨年引き続き、今年度も安心・安全な学校生活を多くの生徒が送れているといえる。ただ、様々な要因から新規に不登校や別室登校となる生徒もいるため、問題の早期発見、早期対応はもちろんのこと、一人一人の生徒に対して継続して丁寧な対応をとっていくことが重要であると考え。	
		生徒は、学校が楽しいと感じているか。	A		
健やかでつよい心身の育成(心豊か)	心身を成長させる諸活動の実践(南中賛歌)	生徒は、あいさつや返事がしっかりできるか。	A	「あいさつ・返事ができる」と感じている生徒が97%(昨年は92%)、「お子さんはあいさつや返事が身に付いている」に肯定的な回答をされた保護者の方も88%と多い。今後も、あいさつが活発に交わされる学校を目指し、生徒会を中心に南中賛歌の「美しくあいさつ」について考え、実際の姿として表せるようになっていきたい。また、ボランティア活動は、コロナ禍でほとんどできなかった昨年より活動の場が増え、「積極的に参加している」と答えた生徒は80%(昨年は66%)であった。校内の草取り・草集めのボランティアにも積極的に参加した生徒が多かった。進んで他者のためになることを素直な気持ちで行うことができる生徒がとても多い。生徒の活躍の場をさらに広げていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの習慣ができていてと旗振り運動の時に感じた。 ・あいさつイコール明るい生活と思うのでこれからも「美しくあいさつ」を続けてほしい。 ・コロナ禍ではあるが、日常を大切に積極的にボランティア活動に参加している様子からたくましさを感じた。 ・生徒会が考案した「あいさつボランティア」の実施によって生徒が自主的にあいさつをすることができるようになったため、とても良いと思う。 ・生徒は素直に成長している。地区の自治会活動において大きな原動力である。 ・PTAあいさつ運動のときに、生徒は皆しっかりあいさつできていた。これからも続けていけると良い。 ・校内でのあいさつはできるだけ校外はあまりできていないように思う。ボランティア活動はできる範囲でよいのでやってほしい。 ・校内でボランティアを募るというのは良いと思う。外での活躍の前に校内、目の前、クラス内など。 ・心身を成長させる諸活動は積極的に参加していると答えた生徒が14%増加している。関心と意欲や多様性への理解力が増すことと考える。 ・あいさつ、マナー向上を目指し、ますます地域に誇れる豊南生を育ててほしい。
		生徒は、校歌を堂々と歌うことができるか。	—		
		生徒は、ボランティア活動に積極的に参加しているか。	A		

<学校関係者評価を受けてのまとめ>

○昨年度に引き続きコロナ禍のため、学校行事や授業など様々な制限の中での教育活動であった。その中でできることを模索し、積極的に取り組んだことにより、生徒、保護者の学校評価アンケートの数値が高まった。学校関係者評価委員の方々からも今年度の本校の教育活動について理解が得られ、改善点を含む貴重な御意見をいただいた。

○令和4年度は引き続き、深い生徒理解を基盤として「魅力ある学校づくり」、「居心地のよい学級づくり」、「わかる授業づくり」を進める。中でも授業では生徒の主体性を育むため、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を進めていきたい。また、SCおよび外部機関との連携を図るとともに生徒一人一人に丁寧に対応し、不登校生徒、別室登校生徒を新規に増やさないための早期発見、早期対応を図る。

○井通・青城学府小中一貫教育による、あいさつ運動や健康教育など、小中9カ年を見通した取組を推進し、学校から家庭や地域へと輪を広げられるよう努める。